

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2015/05 前期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集 北海道大学の入試に向けて（英語・国語・数学）◆

北海道大学の入試は、以前とも変化しつつあります。昨年度の入試では、合格者のうち、道外出身者は、58.5 %と過去最高になりました。道外勢が年々合格者を伸ばしている状況に対して、どのように対処していけばよいのでしょうか。また、以前に比べ、単純な暗記や訓練だけでは答えがでない、思考力を試すような出題も見られはじめているという話を聞かえてきます。今回は駿台予備学校主催の北大入試研究会に参加した先生方のレポートを載せたいと思います。英語・奥田先生、国語・宮下先生、数学・元島先生が、それぞれ在校生のために、研究会の内容とあわせて、現役合格に必要なことをまとめてくださっていますので、確認してください。

□英語（英語科：奥田先生）

【出題内容】

平成27年度の北海道大学（前期）の入試問題は読解2問、英作文1問、会話文要約1問の計4問（150点満点）で、例年通りの出題形式でした。しかし、記述問題が若干増えたことと、第4問（会話文要約）の語彙数が大幅に増えたことから、受験生への負担は増したようです。

駿台予備学校の分析によると、第1問・第2問は、比較的読みやすく、大きな差がつかなかったようです。上位層と下位層で大きく差がついた問題は、第3問（英作文）とのことでした。

第3問は、Question A～Cの3問構成です。Question AとQuestion Bは、本文を参考にしながら与えられた書き出しに続けて英語で答える問題で、Question Cは本文の内容に関連した話題について賛成・反対などの自分の意見を述べる自由英作文です。今年度は、「日本でもホームスクーリングを奨励すべきである」という考えに対し、反対する立場で2つ以上の理由を挙げて70～100語で論じることが求められました。駿台の分析ではQuestion Cの予想配点は22点で、内訳は内容点4点、文法点18点です。内容点は0, 2, 4点の3段階、文法点は文法・語法上の誤り1つにつき2点減点、スペルミスは1つにつき1点減点です。また、60語未満（字数不足）は0点、60～69語（字数不足相当）は、得点から10点減点という配点予想でした。講師の話を聞いて意外だったのは、60語未満または白紙で採点対象外となった受験者が55%もいたということです。作文というだけで苦手意識を抱き第3問を後回しにした受験生もいたのかもしれませんが。採点対象にならない限り、合格を勝ち取ることはできません。もちろんこの問題だけで合否は決まりませんが、この問題が0点で合格した受験者はいなかったと思います。

ここでは第3問を中心に述べていますが、合格を勝ち取るためには第3問を確実に得点する必要があります。目標を達成するために日頃から心がけるべきポイントを確認しておきます。

【対策】

①毎日英文に触れる

第3問で得点できなかった受験生は、恐らく第1問・第2問・第4問の英文を読むのに時間を要し、第3問に時間を充当できなかったと予想されます。第3問のあとに例年よりも分量の増えた第4問が控え、精神的にも追い込まれると「普段通り」のペースでの解答は難しいでしょう。余裕を持って後半の問題に臨むためには、英文を速くかつ正確に読む力が必要です。毎日英文に触れましょう。教科書本文や例文、副教材の長文問題文など、内容を理解している文章を声に出して読み直すことが効果的です。

②本番を意識する

模擬試験や定期試験、部活動の大会終了後に「普段の力を発揮出来なかった」と嘆く声をよく聞きますが、その「普段」にどれだけ「本番」を意識して取り組んでいますか。リスニングは聞きとれなくても待ってくれませんし、試験は時間が来たら強制終了します。遅刻が多い、未提出物がある、授業が始まる時に席に着いていない、チャイムが鳴ってから教材を出すなど、準備不足の人が「普段通り」本番に臨めば、結果は言うまでもありません。習慣は恐ろしく、体に染みついたものは簡単には変わりません。常日頃から時間管理を忘れず、本番を見据えた「普段」の生活を心がけて下さい。

③細かい点に注意を向ける

上述の通り、北大の英作文では1ヶ所につき1～2点の減点が見込まれます。中でも非常に多いのが「3単現」のsの間違いや、不規則動詞の活用ミス、スペルミスです。このようなケアレスミスは、日頃から注意して早期に修正・矯正しない限り、本番でのノーミスは望めません。何も考えなくても正しく書けるように、授業中の小テストや単語テストを疎かにせず、100%「分かる」だけでなく「できる」状態にすることが大切です。

また、自分がミスをして、見直し時に気がつけば大事に至りません。しかし、ミスを見逃してしまう人がいます。ミスに気づくためには、自分の答案を客観的に捉える視点や、小さなことへの気づきが必要です。清掃時に机を整えたり、教室の棚を整理したり、落ちているゴミを拾うなど、些細なことへの気づきと行動も受験に結びつくものです。

志望校合格、目標達成は日常生活の延長上にしか存在しません。これまでの取り組み内容（何を）を変えることも大切ですが、取り組み方（どのように）を捉えなおし変えていくことにより、目標達成への距離はより縮まっていくと思います。

□国語（国語科：宮下先生）

①現代文

【全体概要】

今年度も例年と変わらず全体の論旨を捉えることが求められており、展開に沿って解答を考えることができるかが大切であった。問題一、二ともに、日頃から練習を重ねている受験生にとっては、例年に比べ文章の展開・論旨把握をしやすかったのではないかと思います。出題形式はほぼ同様であったが、例年出題されている「本文全体の論旨をふまえて120字で説明する」という出題がなかった。しかし、「本文全体の趣旨をふまえて」「本文の内容に即して」という条件付きで、100字・80字の出題があり、論旨を把握する力がはかられている点では変わりはない。また、120字の問題が無くなっても全体の記述の字数は例年とほぼ変わりがなく、高度な記述力が求められている。

【対策】

まずは、解答の練習ではなく、本文の展開に沿って問題文全体の論旨を読み取る練習が必

要であろう。「要約をする」というのは「論旨を読み取ることができた」という証明になるためやるべきだと考える。初期の段階では、字数設定をすると字数内に書こうとするがあまり、必要な要素を削除してしまうことがあるので、字数設定をせず要約をすることが望ましいのではないか。論旨を読み取ることが出来たら、次に、設問と展開を照らし合せ、設問同士の関係を考慮しつつ、解答を書く練習を重ねていくとよいと思われる。

②古文

【全体概要】

出典については、昨年度までは中世、近世の文章を主体とする出題であったのに対して、本年度は久しぶりに中古の文章からの出題であった。ただし、内容的には中世的な思考につながる注釈であり、2013年度の『紫明抄』と同じ線での出題(メタ的な言説を読み解かせることを主眼とする)と考えられる。

問題の性格に関しては例年の傾向が維持されている。すなわち、文学史・思想史・書誌などについての知識などもふまえながら本文を正確に現代語訳し、話の仕組み、論の展開をおさえた上で主題を読み取る力、読解の成果をきちんと文章化する力があるかどうかを見る、という北大の古文の基本的なコンセプトに沿った問題となっている。狙いそのものは評価できるが、いかんせん、難易度の設定が受験生の学力と合っていない。

【対策】

普段から辞書を引きながら文章に向き合っているかが勝負である。授業では予習段階で全文を自力で逐語訳(単語・文法がすべて訳に反映されている訳)し、授業中に自己添削をすべきである。また、基礎的な単語や文法の習得はもちろん、それが実践的にどう問われるのかの訓練が必須である。それは問題演習の積み重ねによる。その上で北大の過去問による添削指導を受けるのがよいと思われる。

③漢文

【全体概要】

文系学部で漢文が統一された2006年度以降の出題を確認してみると、奇談のような小説的文章と、説話・随筆・書簡などの論説的な要素を含む文章の双方が出題されているが、最近では後者の割合が多くなっている。純粋な論説文の出題は少ないが、論説的な文章の読解を練習しておくことが必要である。

【対策】

出題傾向が明確であるので、過去問の添削指導を受けるのがよいと思われる。

□数学(数学科：元島先生)

駿台予備学校にて、2015年度北大入試問題研究会が実施され、全道の高校から70人以上の先生たちが参加しました。研究会の内容を踏まえ、今年の北海道大学の数学の入試問題を振り返ってみましょう。

【文系数学】

今年の出題は①2次関数・微分法(標準)、②数列(標準)、③平面ベクトル(難)、④確率(標準)となっており例年通り90分4題の出題となりました。全体の難易度は昨年と比べて難化しました。昨年と同じような分野からの出題となりましたが、北海道大学の出題傾向を見ると、どの分野からも出題されているので幅広い学習が必要です。今年の入試において合格ラインに到達するためには①・④でしっかり得点して、②・③の(1)を正解できれば十分であろうということです。要するに6割程度の得点は必要だということです。受験生の再現答案からは、①では問題を読み間違っ

てースが散見されました。また、(3)では確実な計算力を要求され、試験本番で確実に正解するためには、日頃より計算力(計算の工夫やスピード)を意識した学習が必要になります。日頃の模擬試験や定期考査での失点をケアレスミスの所為にしているようでは合格を勝ち取れないことを肝に銘じておきましょう。②の漸化式の問題は階差数列が主題となる問題で、誘導がついているものの、文字定数 p の値による場合分けが必要で、浪人生を含めて完答の難しかった問題でした。ただ、(1)はしっかりと押さえない問題です。③のベクトルの問題は理系のベクトルの問題よりも難しい問題でした。とは言うものの(1)は基本的な問題なので、(1)は得点したいところです。④確率の問題です。この問題を落とすと合格は難しいと思われます。文字ではなく具体的な値が与えられた設問で計算に手間がかかり、計算ミスをしてしまう受験生も見られたようです。

文系学部とはいえ、十分な数学の理解や学習量が必要であると言えそうです。基本的な問題や模擬試験の問題でも、完答することを意識して問題に取り組むことが大切です。また、本年度以降は整数分野の出題にも注意しましょう。

【理系数学】

昨年と同様の出題形式と言えそうです。新課程・旧課程両方の受験生を意識した出題となるため、新課程の範囲である複素数平面、旧課程の範囲である行列は出題されませんでした。本年度以降は整数や複素数平面の出題にも注意が必要です。今年

のセットは①微分法(標準)、②数列(標準)、③空間ベクトル(やや易)④確率(標準)⑤積分法(標準)となっており、5題120分です。難易度は例年並みで計算量はやや増えました。合格ラインは、③・④で確実にとり、①・⑤でいかに得点し、②の(1)を正解できれば、総合理系であれば十分といったところでしょうか。誰もが得点できないような難問は出題されていないので、6割はしっかりとりたいところです。

①は数学Ⅲの微分法からの出題で共通接線が主題の問題でした。オーソドックスな出題ではありましたが、計算量が多く、計算ミスにより最後までたどり着けないケースが湖陵生の再現答案から見られました。②は文系の数列と似たような問題ですが、(2)は一番得点しにくい問題であったようで、浪人生でもほとんど得点できていないようです。1997年理系前期に似たような漸化式を扱った問題が出題されています。③は出題のされ方に戸惑ったかもしれませんが、センター試験対策でも頻出のテーマなので、多くの受験生にとっては方針の立て易い問題だったと思われます。最後までしっかり計算できたかどうかのポイントになりそうです。④の(3)は新課程では数学Aに、旧課程では数学C(選択履修)に位置づけられている条件付き確率からの出題となりました。現役生には有利に働いたように感じます。今春の卒業生にとっても1番良くできていた問題です。⑤漸化式を用いた定積分関数の値の問題です。(1)の部分積分法を用いて漸化式を導く問題は、必ず演習しているはずの問題なので、日頃の演習量が出来不出来を左右した問題のようです。(2)は浪人生の再現答案からも、答えは導けているものの記述が不十分な答案が目立っていたようです。

過去10年の出題傾向からは、毎年何らかの形で三角関数(sin、cosなど)が出題されています。また、最近3年は微積分の問題が①と⑤に配置されています。あくまでも想像のお話ですが、北海道大学内の作問委員会?的なもののメンバーがそろそろ代わるかもしれません。北海道大学の場合は出題傾向にとらわれることなく標準的な問題の幅広い対策が必要となります。

北海道大学の受験生の話ではありませんが、今春の卒業生から、「過去問と傾向が違った」とか「過去問よりも難しかった」などの声が寄せられました。過去問に取り組むことはもちろんのことですが、本番は緊張した状態で試験に臨むことになるので、過去問とは全く違ったように見えるものです。1発勝負の試験で実力を発揮するためには、日頃から適切なレベルの十分な演習量が必要になります。授業や講習、添削指導などを存分に活用して、上辺だけではなく本質の理解に迫る学習を継続して下さい。